

## NPO 医療を考える会第10回体験学習会

### 薬用植物観察会－東京都薬用植物園散策

東京が梅雨入りして最初の日曜日6月14日小平にある薬用植物園で、時折日差しが差す薬草散策にもってこいの天候に恵まれ、緒方勝行先生のもと沢山の参加者のなか観察会が始まりました。

最初に目にしたのは、「どくだみ」－解毒作用から「毒矯み」と言われ、漢方では清熱・解毒等の効能があり、気管支炎、腫れもの等に用いる。乾燥させると解毒作用が失効する為生のまま外用薬として用いる。こういった説明をスケッチブックに葉の絵や薬草の名前を書きながら、詳しく、丁寧に解説して頂きました。「ハトムギ」－原種はジュズダマ－薬効は いぼとり、抗肌荒れ、参加者の中に何十年と魚の目に悩まされている方がいて、



(八重咲きの十薬『どくだみ』)

「さっそく試してみます。」といった声もありました。木や葉に手で触れ、匂いをかいだり、まさに皆様方に参加、体験して頂けた時間を過ごす事が出来たのではないかと、思います。

場所を変えての昼食会では役員の山西さんの進行で、参加者二十五名の方々の自己紹介、感想、講師の緒方先生への質問の時間を設け、活発な意見交換の場になりました。観察会を第二回、三回と続けて欲しい、漢方に興味を持った、今日の様な学習会をこれからも企画して欲しい、等嬉しい声を沢山聞かせて頂きました。役員一同次回学習会にむけ気持ちを新たにしました。

西洋医学に携わっていた緒方先生は、ご自分が病にかかり色々試されるうち、知り合いの方から漢方を教えてもらい、そのすばらしさを実感し、それから薬草についての勉強をして、今では漢方薬を処方するまでになった、と話されていました。木や草は大地に根をおろし、成長していく。外側からでなく、内側（内面）から身体を整えていく事の重要性、自然エネルギーのすばらしさを教えて頂いたように思いました。先生の「効く、と思うこと。気働きが大事」印象に残る言葉でした。



(花盛りの)

帰り道一歩道沿いに咲くどくだみが今までと違って皆さんの目に映っていたようです。

大勢の参加有難うございました。

